

### 16-3 カムイユカラ「ニンニンケッポ ホクフ ヌムケ (トゥカナカナー)」解説

語り手：鍋澤ねぷき

萱野：これは kamuyyukar [神謡] ですね。

鍋澤：んだ、ほんとの kamuyyukar [神謡]。

萱野：うん、うん、私は一匹の蛍でありました。私自身のお婿さんを探しに海の上をゆっくりゆっくり飛んでいきました。

えー、最初に会ったキレイな男の人は、んー utonnasiko ちゅ一名の、斜めに、いわゆる……、普通、今言おうっていうと、

鍋澤：あの一、しかめ [すがめ] っちゅんだな。あの、samanpe [カレイ] だと。

萱野：あー、なるほど。 utonnasiko とゆうのはアイヌ語で「斜視」。ん、いや、アイヌ語で utonna というのは日本語でいうと「斜視」ですね。斜めに目がいつている斜視ですね。斜視の男なので、それは、んー、いやだ。

その次行ったのは konkanesiko というのはこれは、

鍋澤：サメ。

萱野：サメ？

鍋澤：うん。

萱野：んー、目の色が黄金色していて、それが嫌でやめていった。それからもう少し行くと、sine rek ru kor [sine rek tu kor の言い間違い]。

鍋澤：それタラ。

萱野：鱈？

鍋澤：うん、erekus。(笑い)

萱野：ん、はん、はん。あーなるほどね。

鍋澤：鱈、鱈。

萱野：それから少し行くと鱈が来た。それは sine rek ru kor [sine rek tu kor の言い間違い] といってあごの髭あるみたい見える。

鍋澤：うん。一本あるんだ。

萱野：うん、あーなるほどね。あごの方で一本髭あって、それは……も嫌で、もう少し向こうへ行くと、sikihi poro etuhu tanne。え一目が大きくて、鼻は長いと、

鍋澤：うん、うん。

萱野：だけども、それが好きになったので私は、んー、あの、その sirkap [カジキマグロ]、これ sirkap だな？

鍋澤：うん、んだ、んだ。

萱野：sirkap の、そのお嫁になったと、一匹の蛍が語りました。というあれですね。

鍋澤：(笑い)

萱野：それでこの蛍、んー蛍を貝殻に入れて、砂にうずめて[埋めて]引っ張る。引っ張りながら e=hoku kiroro sanke sanke と言うと、いわゆるその夫の力を出せ、出せと言って、引っ張っても、それはちょっと引き抜くことができないと。で ninninkeppo [蛍] というその蛍の夫は sirkap [カジキマグロ] なので、そういうふうにも力もあるもんだという、その話もあるんだそうです。

鍋澤：(笑い)

萱野：これは、あの、kamuyyukar〔神謡〕です。